

アルゼンチン

アニデス案内



ARGENTINA

アンデス移住地案内
花卉蔬菜関係独身青年

JICA LIBRARY



1053429[5]

国際協力事業団

受入
月日 '84. 9. 14

701

23.4

登録No. 09597

EM

海外移住事業団

東京都港区赤坂田町7の1 電話 (503) 8-9-11 (代表)

■アルゼンチンとはどんな国か

面積でいうと日本の約8倍、人口約2,000万人で人口密度は日本の35分の1に当たる。東はブラジル・ウルグアイおよび大西洋に面し、西はアンデス山脈を境にチリーと接し、北はボリビア・パラグアイに接する細長い国である。国土の大部分はパンパスと呼ばれる平坦な原野であるが、総面積の40%は牧場と牧草地で、農耕に利用されているのはわずか10%弱であり、広大な沃野が今後の開発をまっている。

農産物の主なものは、小麦、とうもろこし、大麦、油料種子亜麻仁、棉花、米、煙草、マテ茶、それにブドウ、リンゴ、蜜柑等の果樹であり、とくに小麦は品質が良く、世界の四大輸出に数えられている。また気候、地形、地味がよいため牛、綿羊、豚等の牧畜が中央平原全域に盛んで、とくに牛の数は人口1人につき2頭半の割合で、食肉、羊毛など畜産物の輸出は毎年輸出額の50%にも及んでいる。

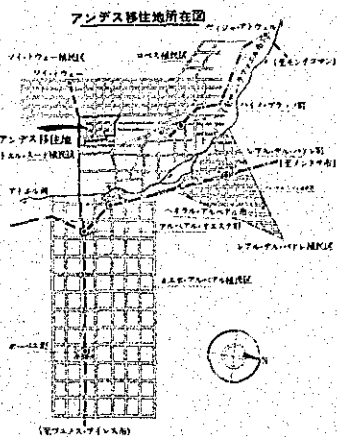
政体については、共和制で政党政治を基盤とする立憲民主政体である。大統領は任期6年、副大統領とともに間接選挙により選出される。地方行政組織は1連邦区および2〜3州に分けられている。第2次大戦までは純然たる農牧国であったが、大戦を契機として工業も目覚しく発達し繊維製品、電気器具、化学製品等はすでに自給の域に達している。

■日本との関係

日本との貿易は割合盛んで、日本への輸出は羊毛、とうもろこし、ふすま、皮革、棉花、ケブラチヨエキス等で、日本からは鉄鋼、鋼板、機械類、化学製品、繊維品等を輸入している。1961年フロンディシ大統領の来日が契機となり、1963年5月17日には両国の間に日亜移住協定が成立、きわめて友好的関係にある。

在留邦人およびその二世三世は約1万5千人でブエノス・アイレス州に過半数が住み、その他は各州に散在しており、農業が約40%で他は洗濯業、工業、商業、自由業となっている。首都ブエノス・アイレスの人口は隣接都市も加えると600万人に達し、南半球第一の都会であり、その繁栄と市街の美しさは南米のバリと云われている。

住民の殆んどがスペインおよびイタリア系白人であり、言葉はスペイン語を使い、宗教はカトリックである。通貨はペソといい最近の換算では1ペソ日本金の約3円に相当している。



■アンデス移住地の一般事情

アンデス移住地はメンドサ州サン・ラファエル郡ハイメ・ブラッツ地区に所在し、いわゆる南部メンドサに位置している。

総面積1,312ヘクタールで、124ロッテに区割されており、1ロッテは約10ヘクタールとなっている。8ロッテがかなまりとになってマンサーナと呼ばれる大区割をつくり、その周囲は道路でかこまれている。

自然的条件

地形、移住地全体として、ところどころに凸凹はあるが概して東南に向かってゆるやかな傾斜をなす平坦地で標高は600米である。

土壌、植質壤土を含んだ砂質土で砂は粒子すこぶる細かく、粘土分を含まれているがその含有率は所により異なる。

植生、耐旱性の強い灌木類が密生しているが木本はない。

水、この移住地を含むメンドサ州一帯は日本ではみられないような乾草地帯であり、農耕はすべて河川水あるいは地下水利用による灌漑農業である。

気候

1年を通じて最も暑い時期が1月で、平均気温24.3度、最も寒い月は7月で平均気温7.3度となっている。7〜8月頃には1〜2回雪が降ることもある。

農業

当地方はアルゼンチン国唯一のブドウの産地及び加工地であり、その他桃・スモモ・オリーブ・梨等の果樹栽培とその商品化に最も進んだ地帯である。本地区入植者の営農もこのような恵まれた経済環境の中にあって高度な果樹栽培を主体とした営農を行うことになるが、河川水利用による灌漑農業であるから、その営農の成果は限られた水量をいかにうまく利用するかにかかっている。

適作物

果物、桃、ブドウ、すもも、梨、あんず、まるめろ。

蔬菜、トマト、ピーマン、玉ねぎ、にんにく、じゃがいも、南瓜、西瓜、ブロン。

飼料作物、アルファルファ、大麦、ライ麦、とうもろこし。

市場

本移住地の所在するサン・ラファエル郡およびヘネラル・アルベアル郡には、ブドウ酒醸造工場が約100、罐詰および乾果工場が約70あり、そのうち地区周辺（トラックで1時間以内）には前者が50、後者が7会社11工場がある。従って、ブドウ、桃、トマト等生産された農産物を売り残すなどということはない。これら生果は近隣都市で消費される外、貨車およびトラックでブエノス・アイレス市・コルドバ市などに出荷される。

営農の手順は、水年作物としてブドウ、桃に主力をおき、短期作物としてトマト・ピーマンなどの間作換金作物を栽培する。

■アンデス移住地附近在住日本人の営農状況

日本人農家としては、約25軒北方のリアル・デル・バードレ町に十数軒、その他二世を含め約100戸位在住している。そのすべてが自作農で小は8ヘクタールから大は120ヘクタールの農場を所有している。栽培作物はブドウまたは桃を主作とし、すもも、梨、オリーブ等で養鶏、養豚も行なっている。入植者は大部分30年以上経過しており、二世が経営の中心になっている農家もある。なお、ブドウ酒醸造工場を営んでいるもの2戸、トマト、ピーマン果物加工工場を営んでいるものは1戸、乾果工場を所有しているものが2戸ある。

その他

近隣都市	ハイメ・ブラッツ町	北方約5軒	人口約6千人
	ヘネラル・アルベアル市	東方約14軒	人口約3万人
	リアル・デル・バードレ町	北方約25軒	人口約54千人
	アルベアル・オエステ町	東方約20軒	人口約14千人

教育・衛生

地区西方および東方各2軒の地点に小学校がある外、ハイメ・ブラッツ町には更に大きな小学校がある。ヘネラル・アルベアル市には小学校・中学校、農業専門学校、看護婦養成学校がある。病院はハイメ・ブラッツ町・ヘネラル・アルベアル市には総合病院がある外同市には十数軒の開業医院がある。

交通

首都ブエノス・アイレス市より西方880軒、州都メンドサ市より南々東820軒にあるヘネラル・アルベアル市から西方約14軒の地点で、ヘネラル・アルベアル市およびハイメ・ブラッツ町経由・リアル・デル・バードレ町に至る道路はアスファルト舗装または砂利舗装されている。またヘネラル・アルベアル市を起点としてブエノス・アイレス市、メンドサ市、サン・ラファエル市・リアル・デル・バードレ町に至る鉄道が通じている。メンドサ市へは毎日2回の汽車便(所要時間約5時間半)があり、ブエノス・アイレス市へは週4回の汽車便がある外、両市へ至る長距離バスも運行している。



入植当所の一時宿泊所

■現地の主要品物価 37年11月・ヘネラル・アルベアル市

米	1 kg	20~25	ペソ	タバコ	20本1箱	15~35	ペソ
牛肉(上)	1 "	75	"	ナベ(大)	1ケ	120	"
"(並)	"	50	"	"(中)	"	100	"
トマト	"	4.50~7.50	"	ガソリン	1ℓ	10	"
ブドウ酒(赤)	1ℓ	12	"	タマゴ	1ダース	35~50	"
"(白)	"	15	"	塩	1袋	7	"
靴下	1 足	80前後	"	作業服(上、下)	1着	700	"
新聞	1 部	5	"	理髪(女)セット		50	"
理髪(男)	1 回	35	"	パーマ(女)		250~300	"

■移住地分譲条件

面積 1家族平均10町歩
分譲価格、標準(1括払)120万円
" (分括払)162万4千円

支払方法、土地代の頭金1区割24万円を渡航前に当事業団に支払うものとし、残金は円建とし、5年据置以後4ヶ年平均等年賦にて現地事業団支部に支払う。

■所要資金

標準最高資金は117万円の内訳は土地代頭金24万円、生活資金(5人家族)21万1千円、営農資金(含建設資金)68万3千円、現地荷物運賃3万6千円である。

最低資金の場合は53万5千円を現地において当事業団支部から融資が受けられる途もあるので63万5千円を準備出来れば移住が可能である。

■花卉蔬菜関係単独青年移住

ブエノス・アイレス市近郊の花弁、蔬菜栽培在留邦人は、日本から独身の青年を呼寄せ、花卉、蔬菜栽培業に就働させ、アルゼンチン国における邦人のこの種栽培業の発展を期したいという希望から、ア国政府の許可を得て全国からの希望者をあっせんしているところである。



カーネーション苗の管理(温室)

在ア日本人花卉蔬菜栽培業者は、人口 600万人の大都市ブエノス・アイレスを中心として80軒以内の地点に放射状に発展し、経営者数は 600戸、その生産高は 2億 8千万ペソ〜 3億ペソに達する盛況を呈している。

この地域の気候は世界有数の健康地として知られ、春夏秋冬最も適良で四時花の絶ゆる間がない。平均気温は16度で、最高気温は38度、最低零下3.5度で雪は降らないが、霜をみることもある。大体においては日本の九州の気候とほぼ等しい。

雇用条件

雇用者と被雇用者との間で渡航前に労働契約を締結するが、その主なるものは次のとおり。

契約期間、2ヶ年（但し期間終了後も希望により再契約については事業団支部があっせんを行なう。）

就労当初の給与、花卉関係月額 4,500 ペソ、蔬菜関係月額 5,000 ペソ、なお 6ヶ月を経過すると少くとも 500ペソ昇給するものとし、次年度以降は、本人の能力、就労状況等により適宜昇給する。

住居、食事は雇用主が用意する。（但し費用は本人負担で月額 2,000 ペソを限度とし、給料より控除する。）

労働時間は季節により多少の違いはあるが、1日 8〜10時間程度である。

希望者の主な資格条件

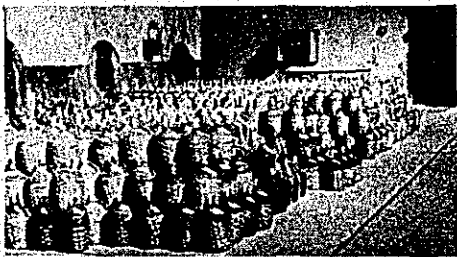
年齢は満18才以上25才未満の独身者であること。

学歴は農業高校（普通高校農業科を含む）およびこれに準ずる（農業講習所、試験農場研修生、伝習農場）学校機関等を卒業または卒業見込みの証明書の取得可能者であること。

移住を希望する人には

移住するための資金の調達容易でない人に対しては、**営農資金**、**宿舍ならびに住宅建設資金**、**大農機具購入費**、**携行小農機具購入資金**等の融資を受けられる道もあり、また渡航費の貸付、支度金の補助、移住あっせん所迄の集結旅費の援助等が行なわれておる。

なお、もっと詳しいことをお知りになりたい方は各都道府県内にある海外協会又は市町村役場でご相談下さい。



生産されたブドウはブドウ酒に加工される



邦人経営のモモ園

地方海外協会住所一覧表

地方海外協会名	所在地	主管名	
東北ブロック	北海道海外協会	北海道札幌市北3条西5丁目	北海道庁農政課
	青森県海外協会	青森市大字大野字長島1	青森県庁農政課
	岩手県海外協会	盛岡市内丸1	岩手県庁農政課
	宮城県海外協会	仙台市勾当台通27	宮城県庁農地開拓課
	秋田県海外協会	秋田市川尻八十刈1の1	秋田県庁農地開拓課
	山形県海外協会	山形市旅籠町301	山形県庁農地開拓課
関東ブロック	福島県海外移住協会	福島市杉妻町16	福島県庁農政課
	新潟県海外協会	新潟市学校町通1番町	新潟県庁秘書課
	茨城県海外協会	水戸市北3の丸119	茨城県庁拓務課
	栃木県海外協会	宇都宮市城田町504	栃木県庁農地開拓課
	群馬県海外協会	前橋市曲輪町乙の69群馬会館	群馬県庁文書課
	埼玉県海外協会	浦和市高砂町4丁目49 埼玉県自治会館	埼玉県庁農業改良課
東海北陸ブロック	千葉県海外協会	千葉市市場町2	千葉県庁農地開拓課
	東京都海外協会	千代田区丸の内3の1	東京都庁渉外課
	神奈川県海外協会	横浜市中区日本大通	神奈川県庁渉外課
	山梨県海外協会	甲府市橋町18	山梨県庁開発課
	信濃県海外協会	長野市大字南長野町字山下692の2	長野県庁農地開拓課
	静岡県海外移住協会	静岡市追手町251	静岡県庁農地計画課
近畿ブロック	富山県海外移住協会	富山市総曲輪1	富山県庁農地開拓課
	石川県海外協会	金沢市広坂通2	石川県庁農地開拓課
	岐阜県海外協会	岐阜市珂町1	岐阜県庁農政課
	愛知県海外移住協会	名古屋市中区南外堀町6の1	愛知県庁農地開拓課
	三重県海外協会	津市栄町1丁目179	三重県庁開発拓植課
	中国ブロック	福井県海外協会	福井市御本丸1
滋賀県海外協会		大津市草津1番町	滋賀県庁農政課
京都府海外協会		京都市下立売通釜座東入り敷内町	京都府庁農地開拓課
大阪府海外協会		大阪市東区法円坂町10 大阪府農林会館内	大阪府庁農政課
兵庫県海外協会		神戸市生田区山本通591	兵庫県庁外務課
奈良県海外協会		奈良市登大路町8	奈良県庁管理課
四国ブロック	和歌山県海外協会	和歌山市小松原通り1の1	和歌山県庁移民課
	鳥取県海外協会	鳥取市東町	鳥取県庁農地開拓課
	島根県海外協会	松江市殿町1	島根県庁農政課
	岡山県海外協会	岡山市山下字中堀81-8	岡山県庁農政課
	広島県海外協会	広島市基町	広島県庁外務課
	山口県海外協会	山口市大字上宇野合根島	山口県庁農政課
九州ブロック	徳島県海外協会	徳島市万代町1丁目	徳島県庁農政課
	香川県海外移住協会	高松市八幡町の1	香川県庁農地拓殖課
	愛媛県海外協会	松山市1番町	愛媛県庁農地拓殖課
	高知県海外協会	高知市丸の内5	高知県庁農地開拓課
	福岡県海外協会	福岡市天神町1	福岡県庁渉外移住課
	佐賀県海外協会	佐賀市赤松町35	佐賀県庁農地開拓課
九州ブロック	長崎県海外移住協会	長崎市椿島町35	長崎県庁農地開拓課
	熊本県海外協会	熊本市長安寺町22	熊本県庁移民外務課
	大分県海外協会	大分市荷揚町1	大分県庁農地開拓課
	宮崎県海外協会	宮崎市別府町10	宮崎県庁農政企画課
	鹿児島県海外協会	鹿児島市山下町68	鹿児島県庁農地開拓課

